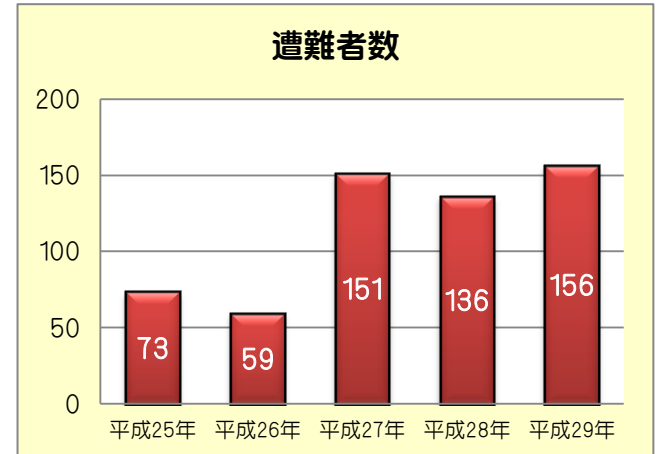
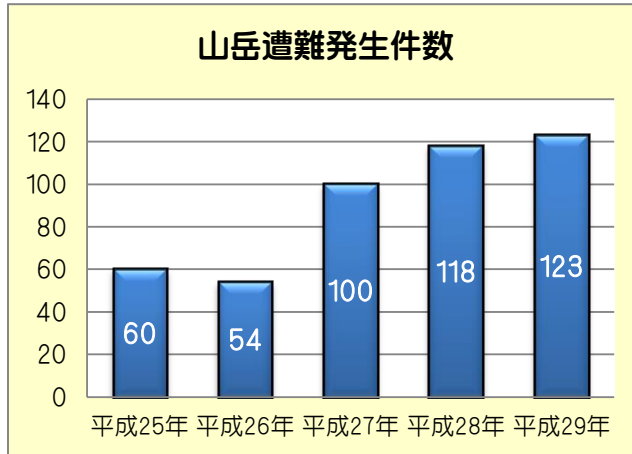


## 過去5年間の山岳遭難発生状況（北海道）

### □ 発生状況

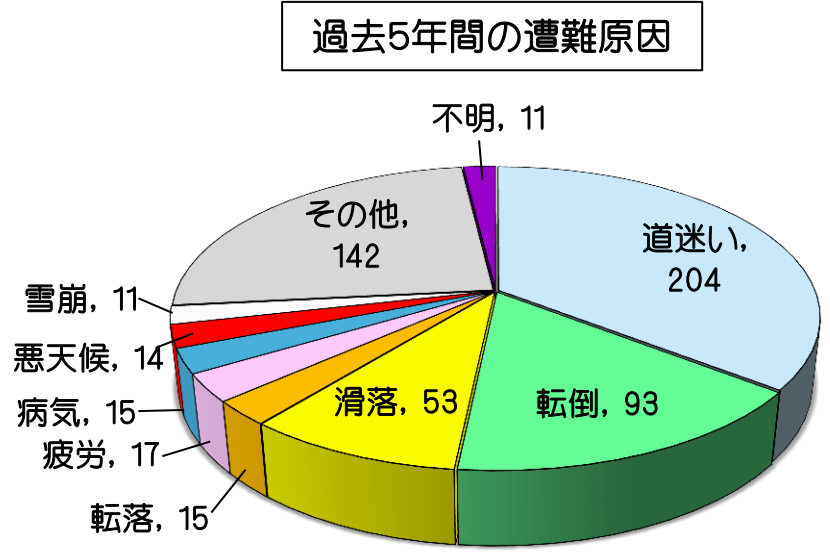
年	件数	遭難者	遭難者			
			死亡	負傷	無事	不明
平成25年	60	73	10	36	26	1
平成26年	54	59	4	27	28	0
平成27年	100	151	6	47	98	0
平成28年	118	136	14	50	72	0
平成29年	123	156	13	71	72	0



道内における山岳遭難の発生は、平成27年に前年比46件増の100件発生し、その後、年々増加しています。  
 平成27年から、スキー場から管理区域外(いわゆるバックカントリー)に出てスキーやスノーボードで滑走中に遭難した事案を山岳遭難の統計に含むこととしたため、積雪期の遭難件数が増加しています。  
 平成29年中の特徴としては、1月から3月の積雪期の遭難件数が40件(前年比-10件)と減少した一方で、6月から8月の遭難件数が49件(前年比+14件)と増加し、一年を通じると123件、156人(前年比+5件、+20人)で、遭難件数、遭難者数ともに、統計史上最多となりました。  
 登山は、自分の体力に応じて体を動かすことができ、充実感、達成感を味わえますが、大自然の中での行動は、常に危険と隣り合わせであり、少しの無理やちょっとした油断が遭難を招きます。  
 登山前には、体力、知識、技術、装備をしっかりと準備して、現地の天候を確認した上で余裕を持った計画で行動しましょう。  
 また、ここ数年、国内では火山活動が徐々に高まっていますので、入山前には気象庁の火山情報等も確認しましょう。

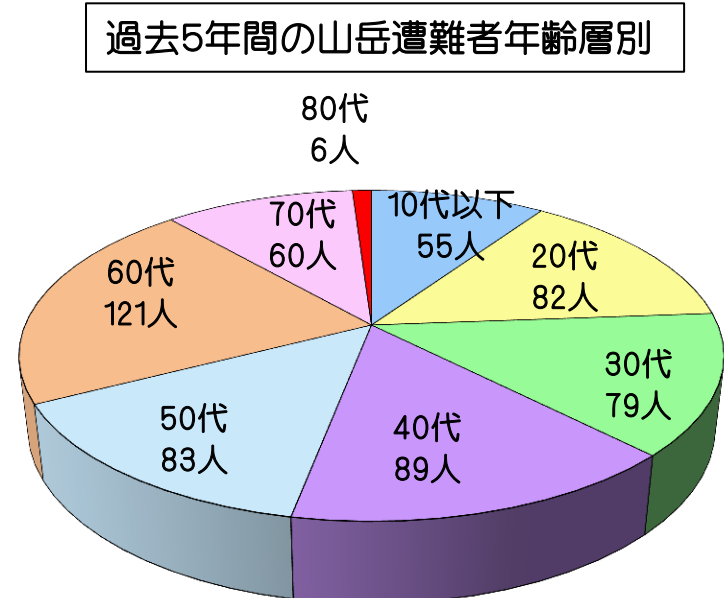
### □ 遭難原因別（人数）

年	遭難者	遭難原因別										
		道迷い	転倒	滑落	転落	疲労	病気	悪天候	雪崩	その他	不明	
平成25年	73	26	10	11	2	2	0	6	5	10	1	
平成26年	59	20	14	7	4	1	3	1	0	8	1	
平成27年	151	45	22	11	2	5	2	3	3	58	0	
平成28年	136	55	16	14	4	1	5	2	1	34	4	
平成29年	156	58	31	10	3	8	5	2	2	32	5	
合計	575	204	93	53	15	17	15	14	11	142	11	



### □ 年齢層別（人数）

年	遭難者	年齢層別							
		10代以下	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代
平成25年	73	3	10	10	11	15	17	7	0
平成26年	59	1	11	9	10	8	11	9	0
平成27年	151	31	22	14	28	16	25	13	2
平成28年	136	13	10	24	22	20	31	14	2
平成29年	156	7	29	22	18	24	37	17	2
合計	575	55	82	79	89	83	121	60	6



### □ 登山計画書提出状況

年	警察受案件数	遭難件数	遭難者の提出件数	遭難者の提出率
平成25年	3,338	60	17	28.3%
平成26年	3,914	54	18	33.3%
平成27年	4,847	100	23	23.0%
平成28年	9,589	118	27	22.8%
平成29年	11,157	123	34	27.6%

**『登山計画書』の提出について**  
 ~登山計画書は自分の生命を守るザイルです~

登山計画書の作成、提出を求める理由には、

- ・計画段階で登山ルートの確認や必要な装備をしっかりと準備できる
- ・連絡がとれない場合、登山計画書を手掛かりに的を絞った捜索が行える
- ・家族や関係者に行き先や行動予定等を知らせて安心させることができる

ほか、登山計画書を提出したことで迅速に救助されたというケースもあります。  
 作成した登山計画書は、家族や職場、所属山岳会等へ提出するほか、警察（最寄りの警察署、交番、駐在所）へ提出することで迅速な救助活動に役立ちます。  
 登山計画書は、北海道警察本部ホームページ「安全登山情報」のサイトからパソコンやスマートフォンを使用して電子メールで送信することもできます。